

令和4年度第1回天理市総合教育会議会議録

1、開会年月日 令和5年2月15日（水）

2、閉会年月日 令和5年2月15日（水）

3、出席委員氏名

並河 健	伊勢 和彦	西畑 敦司
末浪 真希	西田 伊作	吉田 義和

4、委員及び傍聴人を除くほか議場に出席した者の氏名

副 市 長	藤田 俊史
公 室 長	上田 茂治
健康福祉部長	加藤 道德
健康福祉部理事	井上 光博
事務局 長	青木 仁
事務局 次 長	奥村 紀一
まなび推進課 長	藪内 善史
まなび推進課付課長	長岡 律子
総合政策課付課長	中田 文
こども支援課 長	山村結紀子
総合政策課企画係長	細田 勝彦
教育総務課 主幹	前田 貴子

5、会議に付した案件

- 1 地方自治法第180条の7に基づく「協議」について
- 2 地方自治法第180条の2に基づく「協議」について
- 3 みんなの学校プロジェクト等について
- 4 学力テストの結果について

6、会議の経過議題

開会	午前10時00分
終了	午前11時35分

1 事務局次長

おはようございます。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。それでは、予定時刻になりましたので、今年度第1回目の天理市総合教育会議を開催させていただきます。

まず、市長よりご挨拶をいただきます。よろしくお願いいたします。

1 市長

おはようございます。年度末も近づきましたご多用の中、天理市総合教育会議にご参集いただきまして、誠にありがとうございます。また、平素は教育委員各位におかれては、本市の教育施策に大変お力添えを賜りまして、心から御礼を申し上げます。

結構久しぶりですよ、この会議。コロナ禍の影響というのも学校現場もずっと受け続けておったんですけれども、いよいよ節目に差し加かってきているなという感じは受けておりまして、5月の8日から感染症法上の類型5類変更というのがありますが、それに先立って3月の13日以降は通常社会において、マスクの取扱いも個々の判断である。学校現場においては新学期からということでもありますけれども、卒業式についてはもうマスクなしの方向でということも示されておりまして、これから学校現場での対応ということも、社会通念に合致するように、相談しながらやっていかないといけない。

それとともに、やはりこの間の影響というのは非常に大きいものがございますので、学校生活をどう通常に取り戻していくかという部分もありますし、国全体としても、今、子育て施策が非常に施策の中で重要視される中、本市においても、この要綱の改正といったものについても、今日の議題でございますけれども、やはり時代の転換点なんだろうというふうに思っております。あるいは、市が進めておりますみんなの学校プロジェクト、あるいはコロナ禍において、デバイスの配布という点では急速に進んだGIGAスクール、こういったものもコロナ後も引き続きというか、これからこそしっかりと議論が必要になる、そんなタイミングでございます。今日は教育委員の皆様方からも忌憚のないご意見を伺えるかというふうに思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

1 事務局次長

ありがとうございました。

それでは、案件に入ります前に、本日の資料のご確認をお願いしたいと思います。

次第から始まりまして、1ページ目の資料1のフロー図、補助執行の考え方から、最終の学校質問集18ページまでとなっておりますが、資料等に過不足等ございませんでしょうか。

なお、本日の会議につきましては、11時半までには終了したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、案件に入ります前に、案件の議事進行に

つきましては、並河市長にお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

1 市長

それでは、議事に沿って進めさせていただきます。

できるだけ案件の協議は簡潔にして、意見交換に時間を割きたいなと思っております。

1 番目であります地方自治法第180の7に基づく協議について、事務局から、なるべくコンパクトに説明をお願いします。

1 事務局次長

それでは、資料の1の補助執行の考え方につきまして、総合政策課、細田係長から説明のほうをお願いいたします。

1 総合政策課企画係長

総合政策課の細田と申します。それでは、案件1、資料1についてご説明のほうをさせていただきます。

資料1につきましては、令和5年度より検討をしております、幼稚園に係る業務の移管に関するフロー図を記載しております。右側の青色で囲んでいる箇所、こちらにつきまして、令和5年度の機構改革、組織の改編によりまして、市長部局の健康福祉部内に、国のこども家庭庁の設置等に合わせまして、健康・こども家庭局の設置を予定しております。今回、就学前教育の充実を図るため、幼稚園及び幼稚園に係る業務を、この健康・こども家庭局へ移管するものでございます。

幼稚園に係る業務につきましては、こども未来課におきまして、新たに幼稚園係の新設を予定しております。こども未来課において、保育係、幼稚園係、施設係、3係の改正を予定しております、この体制において事務を実施する予定でございます。

次に、移管に関してですが、幼稚園に関する事務につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律におきまして、教育委員会の職務権限とされております。本市では、これまで公民館の業務につきまして、同じくこの法律によって教育委員会の権限とされておるところについて、最終的な権限、責任は教育委員会に残しながら、事務を市長部局の職員が行うという、いわゆる補助執行の手法により事務を執行しております。今回、幼稚園に係る業務につきまして、公民館と同じく補助執行という手法について事務の移管を予定しております。

その根拠ですが、資料1の上側、黒の四角で囲んでます地方自治法第180条の7、こちらが補助執行の根拠になっております。この条文によりまして、教育委員会の権限の事務の一部であります幼稚園の事務について、市長部局の職員に補助執行させることが可能でございますが、その際、協議が必要となってございますので、本日、案件として提出のほうをさせていただきます。

補助執行させていただく事務につきましては、右下、補助執行をさせる事務に、1から11という形で記載しております。こちらの内容を資料2、協議書という形で整理しております。

協議書の中身、文言につきましては、教育委員会の事務局の奥村次長のほうから説明のほうをお願いしたいと思います。以上でございます。

1 事務局次長

資料の2の2ページの資料2をご覧くださいと思います。

補助執行させる内容につきましては、1号、第1から11までの11項目にわたって行います。子どものための教育・保育給付及び子育てのための施設等利用給付の事務に関する事。これは子ども・子育て支援法に掲げてる事務に関する事でございます。2番目の、幼児の受託に関する事でございますが、他市町村の在住の幼児が天理市の幼稚園に入園希望した場合の当該市町村との調整等に関する事でございます。3つ目の、預かり保育料の徴収に関する事につきましては、公立幼稚園での教育時間以外の時間に実施されている預かり保育の利用料の徴収に関する事でございます。4番目の、通園区域に関する事につきましては、通園区域の設定や変更に関する事でございます。5番目の、幼稚園の調査及び統計に関する事につきましては、学校基本調査等の事務に関する事でございます。6番目の、幼稚園の教育課程に関する事につきましては、幼稚園の教育課程等、帳票簿の関係についての作成でございましたり、学級編制の届出についてでございます。7つ目の、幼稚園の運営及び教育活動に係る指導及び助言に関する事につきましては、保育日数でありますとか、学級閉鎖、休業日、休業日変更、臨時休業の報告に関する事でありますとか、園の評価、その他もろもろの事務でございます。8番目の、幼稚園教職員の研修に関する事でございますが、園内研究会、指導、園特別支援推進事業に関する助言等でございます。続きまして、9番目の、幼稚園における人権教育に関する事につきましては、市の人権教育の研究会に関する事でありましたり、就学相談に関する事でございます。10番目、幼稚園の経理事務等に関する事につきましては、幼稚園で行っております種々の教職員に関するいろんな経費の事務を行っております。その他、11番目につきましては、1から10までに掲げているもののほかにつきまして、幼稚園について教育委員会が命じたこととなっております。以上でございます。

1 市長

ありがとうございます。

ただいま説明がありましたとおり、幼稚園に係るものについて、補助執行の形でまとめていこうということでもありますけども、既に前裁のほうの幼稚園がこども園化というところもありますし、丹波市幼稚園も丹波市南こども園という形でやらせていただいて、今後の幼稚園

に來られてる方の人數の減少を見ましても、恐らく市全体として、こども園をどう充実させていくかというところはもう避けられないテーマだというふうに思っておりますので、市によって教委のほうに全部保育もまとめるパターンと、市長部局のほうにまとめるパターンと、両方のケースがあるんですけども、私どもとしては、今回、健康・こども家庭局というところにまとめさせていただければというふうに思っておる次第であります。

今説明ございましたこの協議事項1について、何か皆さんからご質問等ございますでしょうか。

どうぞ、西畑委員。

1 西畑委員

今ご説明があった中で、公民館に関しては教育委員会の会議のところに課長出ていただいているんですけども、これが成立した場合には、こども未来課長も教育委員会の会議に参加されるようなことになるのでしょうか。

1 市長

どうですか、今の質問については。

1 事務局次長

基本的には同様に、こども未来課長も出席していただくこととなります。

1 市長

うちの担当もそうですけれども、この中で引き続き協議をいただくということ自体については変わらないということですね。

1 西畑委員

今はまなび推進課長だけ出ていただいているような格好ですが、また人数増えるということで、いろいろお話を聞いていただく部分も出てくるかなと思いますので。その辺は今、健康・こども家庭局というところの中に入っていくというところで、指揮系統というかね、ややこしくなってしまうまいというお願いです。

1 市長

分かりました。できればこちらは全体でやっぱり議論していくことが増えてくると思いますので、お気づきの点、所掌にこだわらず、またご意見をお聞かせいただけたらなと思います。

1 西畑委員

ありがとうございます。

1 市長

ほか、いかがでしょうか。
どうぞ、吉田委員。

1 吉田委員

すみません。こども園、保育所、幼稚園が一本化するという方向でまとまったことはとってもいいことだと思うんですけども、教育委員会、教育長からの指揮・命令で幼稚園を指揮監督するという部分もあって、それでいいと思います。だから、補助執行させる事務の中に、6番、7番、8番、9番という幼稚園教育の内容に関わるものが含まれているんですけども、これは教育長からの指揮命令というのは外れるんでしょうか。それとも、何らかの形として残るんでしょうか。

1 市長

補助執行だから続くんでしょう、ここの部分は、という理解でよろしいですね。この矢印があって、こういう形で教育長のほうが引き続いてやっていくということです。

1 吉田委員

市長部局のほうに教育長が補助執行するということですね。

1 市長

結構、保育と幼稚園も双方の保護者から出てくるんですけども、何が違うのかとか、何が変わるのかっていうところに、確かに昔は結構別れてたかもしれないですけど、今、就学前に求める内容とか、目指す方向とか、カリキュラムっていうのがそんなに極端に変わるものじゃないですというお話もさせていただいて、やっぱりその双方、小学校1年生になったときに、どういった点を身につけておくべきかというところは、やっぱり、こっちは幼稚園だから、こっちは保育所だからって切って切り分ける時代じゃないなと思っているので、そこをしっかりと一元的に考えながら、引き続き教育長の関与というか、ご指導の下でやっていこうと、こういったことになります。

1 吉田委員

分かりました。

1 市長

ほかいかがでございましょう。
どうぞ、末浪委員。

1 末浪委員

保護者側からしましたら、来年度、5年度の4月から、手続と窓口とかについては、大きく変更があったりするんですか。

1 市長

場所自体も移動しますね。今の、未来課のところへ一元して来ていただくような形にはなりませんので、ちょっとそこは混乱がないようにきちんとご案内をしないといかんですね。スペース的にはいけるんですけど、学童のほうを上にするから、それでいけるんですね。

1 総合政策課企画係長

ちょっと難しいかもしれません。

1 市長

ちょっと工夫が必要なようです。ただ、今までだったら幼稚園の人は上に上がってください、保育所の方は2階に来てくださいみたいな感じで、うちの入り口から別れてるっていう感じだったと思うんです。でも、実際には南こども園のほうの幼稚園コースだったら、今どっち行ってるんですけど。幼稚園コースは5階に行ってるのか。

1 健康福祉部理事

いえいえ、もうこども園になりましたので、こども未来課で管轄しています。

1 市長

こども未来課のほうに来てると。
だから、幼稚園コースなんだけど来てるとか、もうそんな現象はあるので、まとめて。

1 末浪委員

そういう窓口に関しては、一本化して新しくなるという。

1 市長

ただ、上のお子さんのとき5階だったのにみたいなのはあるかなと思います。ちょっとそこ、間違いがないように丁寧にしたいと思います。

1 末浪委員

お願いします。ありがとうございます。

1 市長

ほか、いかがでしょうか。
西田委員、何かございますか。

1 西田委員

今、意見聞かせていただいて、大切な幼児期を過ごす子供でありますので、やはり組織がこういう体系に一体化になったので、より充実した、あるいは保護者にとっても安心のできる、そういう在り方でやっていただきたいなと思います。

1 市長

はい、承知しました。

それでは、各ご意見出ましたですけども、本案、原案のとおり、補助執行という形で進めさせていただいて、ご異議ございませんでしょうか。よろしいですか。

では、協議事項の1番目としては、今、賜りましたご意見に基づきまして、しっかり対応していきたいと思えます。

では、案件の2番目であります。今度は逆に、市長部局にございました学童保育の部分を補助執行で教委のほうにまとめさせていただくということでございますけれども、事務局のほうから説明をお願いします。

1 事務局次長

資料3の補助執行の考え方につきまして、また、総合政策課の細田係長から説明をお願いいたします。

1 総合政策課企画係長

それでは、資料3につきまして説明させていただきます。

学童保育につきましては、児童福祉法の規定にある、放課後児童の健全育成事業として、現在、健康福祉部、こども支援課において事務を執行しております。令和5年度につきましては、地方自治法の180条の2に定める補助執行により、まなび推進課の地域学習係へ事務の移管を行いたいと考えております。

補助執行させる事務につきましては、学童保育に関することになっております。こちらの内容につきまして、資料4で協議書として整理のほうをしております。以上でございます。

1 市長

こちらについても、コロナ前から学童になったら学校の守備範囲と違うのかい問題というようなのがずっとあって、本市は先駆けてそれを乗り越えるということで、どんどん学校と学童の連携を進めていって、結果的にコロナ感染対策でも、非常に学童の指導員さんと先生の連携も進んでいきましたし、よかったかなと思っております。これを今後、さらにしっかりと進めていく上では、部局もまとめてしまおうという趣旨でありまして、何かこの点についてご意見がございましたら、よろしくをお願いいたします。いかがでしょうか。

どうぞ、西畑委員。

1 西畑委員

今、統合されるのはすごくいいことだと思うんですけど、学童保育の事務に関して、今のところ市長部局のほうでやっておられてっていうのが、それが今度、まなび推進課のほうに移っていく。まなび推進課、大丈夫ですか。

1 市長

まだ、今、こども支援課でやってた部隊がそっちに行くんですね、人員的には。どうなるんですって。

1 健康福祉部理事

学童保育につきましては、指定管理者といたしまして、天理市学童保育連絡協議会というところが受託していますので、基本的にそちらのほうで事務を執行していただいて、コロナでしたら小学校との連携も、学童と小学校という形で連携させてもらっておりますので、基本的には入所の決定とかはこども支援のほうでやるんですけども、あと、保育料の徴収も全て学童保育連絡協議会が行っておりますので、特に何人かまとめてまなび推進課のほうに職員が移るということはないと思います。

1 市長

だから、平和な時は基本的にそっちでやっていただいているという感じなんですけど。

向こうで、指導者間でとか、保護者との間で何かとか、私も含めて対応している事案があるので、ちょっとそこはまなびに体制がしっかり持ちこたえられるように、教育長も私も含めて、状況はサポートしていきたいなと思います。ふだんは、そんなに極端な事務があるわけじゃないということね。

1 健康福祉部理事

月次の報告と、そういう入所の決定とか、そういう分だけでございます。

1 市長

ただ、拡張する、だから、増設するとか、ハードを伴うときがあるじゃないですか。あのときは、割とこっこのほうでやらないといけませんね。直近であるとか、ここ数年、朝和のあたりとか、急に増やさないといけない話があったじゃないですか。その辺は、結局は市長部局も含めて、建設部も含めてやっていくということですね。

1 健康福祉部理事

施設整備につきましては、そういう形でいきます。

1 西畑委員

今、すぐ一顧の登録とかね、学童保育の先生方に書いていただいていると思っているので、そこら辺の事務とかっていうのも、今も引き続きやってもらっていることではあるんですけど、滞りのないようについてということと、それから、まなび推進課として一体としてちゃんと進んでいただくよう、ここ二、三年、やっと進んできたかなと思うので、そこら辺は進めていただきたいということをお願いいたします。

1 市長

ありがとうございます。

その他いかがでしょうか。特によろしいですか。

そういたしますと、この案件の2番目であります学童について、地方自治法180の2に基づき、教育委員会のほうで補助執行するという点についても、原案のとおりご承認いただいて、ご異議ございませんでしょうか。

ありがとうございます。

では、そのようにさせていただきます。

今日、ご承認いただかないといけない案件っていうのは、以上2件でありまして、ここから先は、委員の皆さん方に、この機会ですので、忌憚のないご意見をいただけたらと思っております。

まず、案件の3番目として、みんなの学校プロジェクト等についてでございますけれども、現況説明のほうを事務局のほうからお願いします。

1 事務局次長

それでは、すみません、まなび推進課の藪内課長のほうからお願いします。

1 まなび推進課長

資料5をご覧ください。「町から町へ」の3月号に載せさせていただく予定の資料でございます。

記載のとおり、みんなの学校プロジェクトにつきましては、この3つの視点で取り組むということで、今進めております。イチカステーションに関しましては、今、各校区でどのように取り組んでいくのがいいのかっていうことを検討しているような状況で、櫛本小学校区につきましては、事前にイチカステーションの看板ができたり、牛乳パックを集めるとかっていうところが進みかけているというところで、まだ今、試行錯誤の段階がイチカステーションの状況でございます。

ちょうど1枚開けていただきますと、イチカステーション「みんなのひろば」ということで、櫛本小学校の写真等が載っておるのは、そのような状況でございます。

また、続きまして、その下に記載があります、子供たちとともに食品ロスの問題を考えるということで、食品残渣発酵分解装置の取組を

今進めております。各小学校に機械のほうが入りまして、給食時に出る調理くずであるとか、残食を入れまして、堆肥に変えるということを進めているような状況でございます。各小学校のほうには指導主事が回りまして、地球温暖化に関する環境問題、食品ロスに関する問題を子供たちに授業として講演をいたしまして、食品残渣発酵分解装置をどのように活用していったらいいのかということをお考えするという事業に取り組んでおられる状況でございます。その左側ですけれども、この2番目が、この子供と大人がともに学ぶという取組がこの食品残渣発酵分解装置であるとか、イチカステーションというところで環境問題、食品ロスに関する問題を地域の方とともに一緒に考えながら、学びを進めていこうという取組がその部分でございます。

続きまして、一番最後のところになりますけれども、公民館活動との協働というところで、8ページ目になります。今、公民館活動と学校の授業をどう取り組んでいくのかということで試行的に今取り組んでいるところでございます。写真に記載にありますとおり、福住小学校の3年生では、凡ダンスの取組を地域の方と、朝和小学校のほうは、大正琴のアンサンブルの方と子供たちの音楽の授業を一緒に取り組んでいる様子です。左側の柳本小学校のほうは、公民館活動の俳句クラブの方と小学校6年生が6年間の思い出というところをテーマに俳句の作り方を学ぶという学習を行いました。右の前栽小学校の5年生のほうでは、真美体操を5年生と一緒に取組をさせていただきました。真美体操につきましては、丹波小学校の3年生も取組をしているような状況でございます。また、今週20日には、井戸堂小学校では2年生の子供たちとヨガの体験を一緒にするというふうな形で、公民館活動と子供たちの活動が、今は一緒に取組を進めているというような状況でございます。以上でございます。

1 市長

もうちょっと踏み込んで、やってみてどうだったのかを、教育長ないし教内課長から。

1 まなび推進課長

特に柳本小学校の部分なんですけれども、これ、2日連続で取組をさせていただきました。初日は、やっぱり地域の方も子供たちも緊張感を持って取組をして、何か授業でも堅い雰囲気だったんですけども、2日目なんですけれども、お互い、子供たちの様子も、子供たちも地域の方の様子が分かりまして、比較的にリラックスした雰囲気を取組をされました。2日目の授業が終わった後なんですけれども、授業の中で地域の方が声かけをしてもなかなか返事をしない、反応しない子供がおったんですけども、その子が授業の挨拶の後、廊下にまで地域の方を追いかけて行って、ありがとうございますっていうふうな声かけをしたということで地域の方が喜んでおられたのと、また、授業の後、子供たちが地域の方に、また来てねっていう声かけをしてくれた子供

がいました。その方は非常に喜ばれて、教室からその後、校長室に行くまでの間、何度も、また来てねって言ってもらってん、また来てねって言ってもらってんと、何度も声かけして、非常にうれしそうにされておられました。地域の方も非常に張り合いを持ってこれに取り組ができたということで、柳本小学校の取組は非常に良かったのかなと思っております。以上でございます。

1 市長

そういったことで、今年は部分的にですけれども始まりまして、また来てねという言葉が表すように、継続が大事だと思ってるんですけども、来年度、これから私も施政方針を書くんですが、大げさでなく、市の命運をかけて取り組むプロジェクトだというようなことでやろうと思っております。

というのは、今、子育て施策が全国的に議論されてるんですけども、割と大きな潮流で引っ張ってるのが明石型、明石の市長さんも存じ上げてますし、頑張っておられるなと思うんですけども、いかに手厚く補助をするかという要素が非常に多いです。だから、これもしよか、これにも補助金がみたいなの、そんなところです。財源が山ほどあれば、もちろん我々もやりたいんですけども、割と金持ってるかどうかの勝負みたいなのところにもなってきたりして、正直、じゃあ、うちが生駒と対抗して勝てるか、まず無理です。それを手厚くするから途端に住民が増えて、税収が増えたんで賄えますっていうのも、全くもって現実的じゃない。そういうときに、じゃあ、金目以外の勝負だけでは話にならなくなった場合に、何が残ってて、天理で育てるっていうことによかったなと、保護者だったり、子供たちに思っただけのんだっていうと、やっぱり都市部にはまねできないこととしては、やっぱり地域との関わりと。誰彼なく出入りするようになると、これはまた安全の話とかはありますけど、だから、まずは公民館で活動していただく、顔が見える関係のところからしっかり入っていただいて、とにかくいろんな活動を一緒にやんねんと。高齢者の方も元気になっていきますし、子供らもやっぱり、今、自分の親以外と関われる機会が極端に減っている。コロナでコミュニケーションする機会がなくなってきた。前、西畑委員からも、ご自身のお子さんが学校に行ってる間は関わるんだけど、それがなくなったら途端に行かなくなるといった話がありましたが、コミュニティスクールの話もいろいろこれまでやってはきてるものの、形式的に今年もうちの学校は何を目指すんでしようみたいな、スローガンにただ単に協議してもらいたいなんにとどまってるところが多くて。大体、明るく元気な未来を開く何とかっ子とかっていう題目を決めて終わるみたいな、これ、意味ないというのは私の率直な思いであります。

もう1点、ちょっと長くなって恐縮なんですけど、公民館がとにかく老朽化してきてるんですよ。さっき予算の話をしましたけど、公民館の老朽化の中でも、外壁工事、何千万とか、雨漏り二千万とか、そう

いうの出てきてるんですよ、実際に。で、止めてます。これから、もちろん公民館を直ちにとという話じゃないですけど、多分、外壁を二、三千万かけて直しても、使い勝手、何も変わらないと。来る人の満足度も、別にそれで何ら上がることはない。だったら、そのお金、中身に使いませんか。そのためには、でも、生涯学習と学校教育をどれだけ融合させられる、天理らしい形をつくれるかというところにかかっていると思うんですよ。でも、今の教委でいろいろ予算切り詰めたりっていう中で、例えば図書館の本だったりとか、公民館の皆さんと一緒にやるための材料だったりに何百万も何千万もかけるって、考えられないでしょう。

1 教育長

無理ですね。

1 市長

ソフト、ハード、両面からやっぱりこれをしっかりやっていきたいというところであります。

ただ、とはいえ、ちょっと実際に試行してみた中で、櫟本のようにどんどん進んでいるところもあればというところだと思うんで、何か今の時点でお気づきだとか、いや、ここ、もうちょっとこうしたほうがいいのかというのがあれば、前振りが長くなって恐縮でしたが、ぜひご意見をいただければと思います。お感じになっていることを何なりと。趣旨が地元伝わってないとか、そういうことも含めて。

どうぞ、西畑委員。

1 西畑委員

すみません、今、おっしゃったとおり、趣旨が地元伝わってないです、本当に。コミュニティスクールの話はおっしゃるとおりですけど、学校運営協議会とかっていうようなところに皆さん参加されてっていうふうなことが、コーディネーター会議とかいうようになってても、コーディネーター自身がまずボランティアの発表みたいでね。だから、コーディネーターが会議に行って、この校区、こんなふうなこともできるんじゃないかとか、もっとこんなことやりたいんだとか、そういう話合いに全くなっていないので、こういうふうな方向性っていうのをちゃんと出していただいて、こっちむいてくださいよというのをもっと言っていかないと駄目だと思ってます。みんなの学校プロジェクトって、何をするんだっていうのが全然伝わってない感じがあるので。こんなもん櫟本やからできたのではというようなことを、これを議員さんが言わはるんでね。まず、議員さんのところから理解していかなあかんというふうな感じが出ています。

1 市長

多分、議員さん自身も校区の雰囲気を感じるんで、区長さんも何と

なくフィーリングを、自分が代弁したらんとあかんっていうところとも混ざってるのかなと思います。ただ、いずれにしても、目指す趣旨が、特にコロナ後に向けて、これがいかに重要かっていうところを、それ、櫛本だからできてるんだというのはちょっと私、全然分かんないですよ。

1 市長

櫛本でもそんな全然簡単じゃないし。ただ、やってみたら楽しかったということを一早く気づいた。

教育長、どうですか。

1 教育長

喜びになった、元気をもらったという声が広がって行ってましてね、口コミで、それが大きいのかなと思うのと。それと、地域の人と、さっき言わはったように、形式的な話合いじゃなくて、地域と学校が何を、これをこうしようという話合いをしとる中で、本音で話し合った中で、教職員が今までの学校の常識を疑い始めた、これが大きかったかなと思いますね。

1 市長

もちろん、違いがあるとすれば、地域性は、実はそんなに極端に違わないと思うんですけど、教育長が当時校長だったというところと、あと、実際には森田さんだったり、近藤さんだったり、長寿会の方だったりとか、核になってくれるような人材が地元のほうにそろってたというのは大きかったです。だから、こっちがお願いしてやってくださいっていうよりも、早くに地元でやりたい人ががんがんやってもらったっていうのが非常に大きく、今、私が申し上げたような人たちがほかの校区に人材としているかということ、すぐには思い当たらない。けれども、多分やってみれば出てくるんだと思うんですね。だから、そういうことに実は関心もあるし、興味もあって、やりたい気持ちもあるんだけど、今まできっかけがなかった。あるいは、区長さんとかが上でぼんと言うもんだから、自分はまだ、何か地域のことに口出しできる世代ではないみたいな空気があるとか。そこをもうちょっと関わりしろをつくっていく中でちょっとやっていかんと駄目かなと思ってるんですけど。ただ、実際に、じゃあ、ほかの校区でやってみて、嫌やったとか、やらなきゃよかったどうですか

1 市長

どうぞ、吉田委員。

1 吉田委員

福住の例なんですけれども、学校運営協議会ができて、それで、学校運営協議会で何をしてるかっていうと、やっぱり校長の方針を聞いて

て、承認して、意見を言って、評価をすると。もうそれだけで終わっている状況で最初あったんですけども、実際にボランティアで動く人たちが学校運営協議会につながっていない。私、学校運営協議会の委員じゃないですけども、オブザーバーになってるんですけども、櫛本の例をやっぴり見ようということで、ちょうど150周年記念のオープンスクールだったんで、みんなで行きましょかと言ったら、いや、もう来てもらうということで、森田さんと、それから校長先生と、教育委員会にも来てもらいましたけども、お話聞いている中で、ここが違うなっているのを思ったのは、ボランティアを回していく事務局がきちんとしてると。福住の場合、学校運営協議会があって、その人たちが、今申し上げたとおりにやっている。コーディネーターの方も5人おられて、どういう動きをしてたかっていうと、学校の校長先生、教頭先生なりが、この時期が来たからあのコーディネーターさんに頼んでちょっと人を集めてもらって、こんなことをお願いしよう。次の時期きたら、また今度、こっちのコーディネーターさんに頼んで、こんなことをお願いしよう。だから、12月に門松を作っているボランティアさんは読み聞かせをしておられるボランティアさんのことを知らない。地域の人も学校で、地域の誰れさんがこんなことで子供たちと関わってやっておられるということをあんまり知っておられないっていうのがあったんです。それで、櫛本のお話を聞いて、その事務局大事だということ、1月からボランティアの名称は分からないですけど、いわゆるコーディネーター会議というのが、地域・学校協働本部っていうやつですね、それのような、数名の仲間をつくって、1年間それで毎月会議をしながら、どうしていったら大体年間こんなふうに進めていったらいいだろうっていうものもできてくるし、また、福住の小・中と、それから地域とで、こんなことを、こういうふうにやっていると、これを組織図としてつくるといふことをちょっと進めてもらっています。

1 市長

今、事務局っておっしゃっていただいたんですけど、櫛本における事務局って誰のこと。

1 吉田委員

櫛本プロジェクト協議会。

1 市長

それは森田さんとか。

1 教育長

はい、職員も入っている。

1 市長

だから、やっぴりどうすりゃ進むのかということがほかの校区が分

かってないまま、やれやれっていうふうになってるんじゃない。

1 教育長

反省します。

1 市長

だから、ちょっと今のご意見のように、どうすれば動くんだっていうところを、多分、政策意義を私がとうとうと言ったら、まあまあっていう感じで、極端な反対を受ける話じゃ、これ、ないとは思うんですよ。

1 教育長

1つの大きな進め方のヒントになります。

1 市長

そうですね。その、やっぱり、事務局とおっしゃっていただいた、コーディネートできる人をどうつくるかがないと、多分、校長もどう動いていっていいか分かんないじゃないの。北中で町カ塾が広がりましたけど、あれもやっぱり芯になるような岡田さんらが出てきたからでしょう。

1 西畑委員

今のお話、ちょっと大事なところかなと思います。コーディネーターの任命って、校長がするじゃないですか。任命っていうか、推薦っていうか。もう校長がしないほうがいいのではないですか。地域、学校の人って、大体顔見えてくるじゃないですか。地域学習係なんかでも、こんな人がいいっていうのがあって、この人って何か見えてくる場所あるじゃないですか、地域の関係性。そういう人はもう、教育委員会の事務局のほうから、この人にやってほしいっていう指名したほうがいいんじゃないでしょうか。

1 市長

だから、最終的に校長も思想が分かってくたらそっからでいいのかもしれませんが、多分、今の話は、校長自身が趣旨が十分落ちてないのに選んでしまうと、余計分からなくなっているということですよ。

1 西畑委員

そうですね。ただ単に、ボランティアの代表者決めて、その人に出てきてもらっているという。

1 市長

それは昔ながらの、うちのいろんな協議会とかのつくり方で、今求

めてるのはそれではないと。やっぱりこういうプロジェクトを身を入れてやっていこうという、動いていただける方、この人だったら周りもついてきてくれるかなみたいな人をしっかり選んでいこうということですよ。

1 西畑委員

はい、そういうことです。

1 市長

だから、そこはちょっともう、教育長あるいは藪内課長さん、地域見ながら、ここはこの人だね、歴代の意見があればとか、ちょっとその辺、ぜひ人選も含めて、ご相談に応じていただけたらありがたいですね。

1 教育長

また教育委員の皆さんのお力も借りながら。

1 市長

いや、やっぱり樺本、そういう意味ではバランスがいいんですよ。ずっとPTA活躍してたOBの方もいるし、区長会と長寿会のほうも、割とぐっと食いついてきてくれたのはあるんで。途中まで、区長会とか、これ、どういう意味か分かってやってるのかなみみたいなところもあったけれど、それは割と教育長がうまいこと尾関さん達を立てて、立てて、立てて、動いている感じだった。攻め方いろいろですけど。ただ、今はミスキャストだということですね。

1 西畑委員

ありがとうございます。

1 市長

その他どうでしょう。
どうぞ、末浪委員。

1 末浪委員

先ほどの樺本のことではいいますと、やっぱりそこは公式LINEもつくって、義援金じゃない、協賛金、資金集めも単独で行って、会報も毎回出して、広報活動っていうのもすごくやっているんですね。なので、市民も賛同しやすくて、身近で、そういうところにみんなで学校プロジェクトを持ってきて大きくなって、土台がしっかりした状態で行政の力が入って伸びていったところ。ほかのところは恐らく土台がないまま、要するに、どうでしょうこれっていうのでなっていると思います。

1 市長

だから、ちょっと、校区の一般の保護者の皆さんもよく分からないまま進んできてる。櫛本は町カ塾の効果、きっかけか、サポーターのお金集め始めたのは。

1 教育長

そうです。会員として。

1 市長

自分らで広げていくということですよ。だから、全く同じルートじゃなくてもいいかもしれないですけども、地域の皆さんに自分たちがやってることへの協力者を広げてもらうような、やっぱり流れにするのが非常に大事だということですね。

1 末浪委員

櫛本の場合はそのルートだったので。ほかのところも、ほかの校区が同じようにしないといけないというわけではないと思うんですけども、こういう形で進んで、やっぱり下からと上からと一緒に進んで行くのがいいと思うのところでいいますと、先ほど議員さんがみんなの学校プロジェクトのことを櫛本やからとか、できたとかっておっしゃってたんですけども、でも、市長は本市の市運をかけてやっていくということで、私たちはこの教育委員会の中でさんざんお話を、こうやって協議を重ねてきてますが、議会のほうとか周知、認知度というか、私たちはすごいいいものをつくり上げていってる、やるぞみたいな感覚でいるんだけど、ほかはどうなのでしょう。

1 市長

もう一遍、しっかりお伝えするように頑張ります。

櫛本に来たときに、それがいいかどうかっていったら、悪いことやってるっていう議員さんいないですよ。ただ、それをどうやって自分のところに広げていったらいいかが分からないっていうことなのかなというふうに思うので、ちょっとそこは、議員さんにもよく伝える努力はしたいなと思います。

1 末浪委員

あと2点ほどすみません。

このような中で、やっぱり市民の方も、いきなりみんなの学校プロジェクトという言葉だけが降りてきている状態かなって。じゃあ、中身何なのっていったときに、実は櫛本でさんざん核となってやられていた方であっても、みんなの学校プロジェクトって簡潔に言ってみない、そんなのがなかった、説明できなかった。自分たちでこうかな、ああかなみたいな、自分たちのやってきたところっていうのを伝えることができたとんですけども、今回3つの柱っていうのを上から、行政

から下ろしてきて、すごく分かりやすくなったかなというふうには思うんですけども。何か下からもやっぱり土台となる人たちにここをしつかり共有して、下からも伝えていって、行政ができることはこうやって「町から町へ」とか通して下ろしていくことかなというふうには思うんですけども、そこを少しもうちょっと詰めていきたいなど。

1 市長

両方ですね。

1 末浪委員

はい。そう思っています。

1 市長

最初、自然発生を期待はしたんですけどね。でも、何かだんだん櫟本とのギャップが、むしろ広がっていく一方で。何年やってましたっけ、櫟本。

1 教育長

もう足かけ7年です。

1 市長

7年でしょう。7年たっても、だから、難しいと。だから、それで、今回いよいよ実際に学校教育の中に公民館活動をやってみて、やってみたら楽しいという人を増やすと。それと、芯になる人を育てていくっていう、ちょっと合わせ技でできたらなと思ってまして。まずは面白いとか、楽しいっていう人が出てこないことにはどうにもならないかなということで、来年のカリキュラムの中ではもうがつつり入れ込んでいってるんですよ、各学校、どうですか。

1 教育長

指導計画の中にもうたってますし、それを具体的に年間計画へ入れるよう伝えてます。

1 市長

ですから、学期に2回やりましたとかでは困る。毎週のように、やっていく。

1 末浪委員

分かりました。あと、そしたら、もう一つなんですけど、広報の中身として、ちょっと分かりにくいなど、私が理解してないだけかもしれないんですけど、7ページ目の、みんなの学校プロジェクト事例紹介のところですね、言葉でイチャかっていうのは分かるんですけども。イチャプラス、みんなの学校プロジェクト、何かばらばらになってい

て、イチカプラスというのだけがどこを探してもなくって、ただ、ロゴマークで、イチカのロゴとイチカプラスのロゴが違うなど。イチカプラスの説明っていうのがなくて、これをちょっとロゴを変えると、あっ、こども食堂とか何かそこがイチカプラスっていうところですか。勝手な、個人的な解釈をしてしまうような感じなのかなと思いますので、少しイチカプラスの説明と、あと、6ページのところと8ページの公民館の活動というのは、みんなの学校プロジェクトとどうつながるかっていうのは、6ページの2番のところの、半分より後ろ側ですかね、「また、公民館活動を」っていったところに、例えば8ページみたいな形で連結さすとか、みんなの学校プロジェクトと公民館活動と。このままだと、みんなの学校プロジェクトと公民館みたいな形になるのかなと思ったので、ちょっとつながりを持たせたほうがいいかなという。

1 市長

これ、もう出した。入稿してるの、既に。いや、「町から町へ」の、これ、コピーでしょう。ちょっと間に合えばですし、間に合わなかったら、今後のやっぱり発信の仕方に今の指摘は重要かなと思うんで。ちゃんと伝わってない。イチカのロゴだったり、固有名詞が入り過ぎてるんですよ。だから、まだ分かってもらえてないというか。そんなに正直、みんなの学校プロジェクトとかもイチカプラスってまだ、それほど融合できてないので。

1 末浪委員

ああ、そうなんですね。

1 市長

イチカプラスの活動自体は、今年度いろいろ子育て支援策で出させていただいたりしてるじゃないですか。それで今、300店舗ぐらい加盟店があるんですけど、そのうちの40店舗ぐらいにさらに踏み込んで入っていただいている、その店舗で使ったお金の1%とか、多いほうで10%なんですけれども、それを地域の福祉とか、スポーツ振興に役立てますっていう、そういう形なんです。だから、今回締め切ったやつでも合計で30万ぐらいでしたっけ。そこで寄附いただけるような形になったんで、今からこども食堂とか、おてらおやつクラブとかに出すんですけど、その心は何かというと、結局、割引があるからとか、もらったから使うけど、そうじゃなかったら使わないっていうことだと思うんで。

1 末浪委員

イチカはですよ。

1 市長

はい、イチカ自体を。それをちょっとでも持続可能にするためには、地域のためにもなるよっていう要素をつくって、地元のお店に行ったら、自分の町をよくすることに貢献できるんだってという流れをつくりたいってというのがこの事業なんです。だから、ひいては、もちろん学校のプロジェクトにもつながってくるんだけど、ちょっとこれ、無理に今の時点で結びつけ過ぎてるかもしれません。だから、別に今の時点では、みんなの学校プロジェクトに目指す部分が大事なんで、でも、むしろ8ページの部分が、多分今はまだメインとして進めていかなきゃいけない部分なんで、ちょっとその辺の今後のプレゼンの順番とかよく考えたいと思います。

1 末浪委員

イチカの説明のときにイチカプラスっていうのも踏み込んで、そうすると、学校プロジェクトと連携っていうほうがいいかもしれません。

1 市長

あれ、別ページでイチカプラスの説明のところは。

1 公室長

特集ページでイチカプラスはありますね。

1 末浪委員

これとはまた別。

1 公室長

これとはちょっと別になっちゃうので。

1 市長

だから、中身は、天スタさんとか、食券なんて無理ですみたいな対応だったんですけど、地元のためにもなるんだったらやりますっていうふうに参加いただいたこともあったりしてですね。

1 末浪委員

そういういいお話をやっぱりどんどん前に出してもらったらいいと思います。

1 教育長

ここちょっとややこしいのはね、櫛本で運営する町カポイントとイチカポイントが合わさって書いてあるんで、子供たちの活動にポイントがつくのは、櫛本の町カポイントいうのでやってきたんです。

1 市長

ちょっと情報が錯綜してるということです。まだみんなが共通言語になってないのを無理やり入れ込んでも、伝えたいことが逆に訳分からなくなってるって、そういうことですよね。

1 末浪委員

情報過多というか、何か1個1個それを理解してないまま進んでしまう感じがするので。

それと、給食残渣の機械についてなんですけども、メインで全てその機械を通して子供たちが学びを行うということなんですけども、それはそれでいいと思うんですが、給食残渣の機械を置いたことでの、何か良し悪しみたいな、置いてそこから活用っていうのはいいと思います。置いた、実際に使ってる人たちっていうのが、良い、置いてよかったなっていう面と、これはちょっと逆にこういうロスができるんじゃないかっていうところはあるのかなと思うんですけど、その調査っていうのはしてますかね。

1 市長

この間の話でしてましたね。
どうぞ、率直に。

1 まなび推進課長

この課題という意味では、ちょっとまだ匂いの部分があるっていうのはちょっと課題がございまして。

1 市長

何か油分がたまってるんでしょう。

1 まなび推進課長

そうですね。そこら辺りも。

1 市長

それが当初、メーカー方の説明と違ったんで、どうにかしろというのはこの間、私も言わせていただいています。

1 末浪委員

ありがとうございます。給食のやられてる方からは、櫛本には、例えば配水管の、こっち向きに、ここに流してとかいうオーダーが取れたけど、私たちにはそんなのなくつけられてたみたいなのも聞いてたので、あっ、そこでも櫛本と差があるんだと思ったのは私の率直な意見です。

1 市長

なるほど。その点は。

1 教育長

えっ、今の話はちょっと初耳なんですけど。

1 市長

いや、だから、配水管のやり方だとか設置の仕方も含めて、要は知らないうちについてたということですね。

1 事務局次長

一応、事前に現場のほうに寄せていただいて、どこにつけましょうかという話は給食調理員さんともさせてもらっています。

1 市長

いや、今大事なものは、そうじゃない。言った言わんのことを今蒸し返そうというんじゃないで、そういう感情が残っているということなんですか。いや、だから、今後、ちょっともう一段ちゃんと理解を求めたり、夏に向けてその対策がどういうふうになっててとか、思っていることがあるんだったら、聞いてあげる機会をちゃんと持った上で対策をしないと、要らん話になっていくよと、こういうことですね。だから、いや、もうそんなもん最初に言うとしたやないとか、そんなことを今議論してんじゃないですよ。

1 末浪委員

2番に置いている、すごく据えてる、学校プロジェクトの2番に据えてる大きなメインになる機械であるのに、一方では、すごいネガティブな発想があるっていうのはよくないなと思いました。

1 市長

ありがとうございました。
どうぞ、西畑委員。

1 西畑委員

今のお話ですけど、みんなの学校プロジェクトといいながら、地域の人たちがそういうものを設置するというふうな話、納得して進んでない。だから、もっとこういうことをやるっていうのをきっちり説明して、どんな意義があってやっているんだっていうふうなことというのをやっぱりみんなに分かって進まない、みんなの学校にはならないと思います。

1 市長

ありがとうございます。
だから、ちょっとコロナですずっとできてなかったんですけど、公室

長。だから、学校運営協議会でもいいし、あるいはタウンミーティングを3年間ずっとやってないじゃないですか。そこで、ちゃんとやっぱり校区の皆さんに説明するように、ちょっと年度明け、やったほうがよさそうですね。

1 公室長

そうですね。

1 市長

これを題材に。

1 公室長

ちょっと、はい。それを機会にちょっと意識して。

1 市長

区長さん方に、なぜうちの市がこれを取り込んでるのかという根本からきちんと多分伝わらないと駄目だと思います。

1 末浪委員

もう1点、ごめんなさい、思い出したんで、もう1点だけ。

給食残渣の機械のことにしても、昨年末、食育推進協議会というのがあって、そこでその話が、設置して1か月はたったので出るのかなと思ったら、意外とその場では、やっぱり給食の値上げの話がディベートしたのがその主だったので、時間がなかったのかもしれないんですけども、それぞれの給食の方が来られてるのに、苦情とかも職員さんから聞いてるのに、そこで言わずに帰っていった。ここで話してきたときにぶわって出てきたみたいなのがあったので。何かやっぱり会議、協議会とか何かたくさんあるんですけども、来て、発表を聞いて終わりじゃなくて、なかなか打ち明けられないっていうような、そういう会議の場になってるなっていうのは、せっかくやっつてのにもったいないなというふうに思います。

1 市長

なるほど。どうですか、その点。

1 教育長

給食の協議会は、本来そういう話をせんとあかんかったんですが、給食の値上げの話も、言わせてもらったように、皆さんのご意見を、やっぱりコンセンサスを得ようと思ってやってくれたと思うんです。

1 市長

次回はいつやるんですか。その協議会。

1 まなび推進課長

3月下旬頃、今のところ。

1 市長

それまでにやっぱりきちんと議論をやります。ありがとうございます。ほかいかがでございましょう。

1 吉田委員

8ページの公民館活動との協働のところがいいんですけども、これはかなり可能性が大きいかなと思うんです。ここでは小学校の活動に公民館の活動をされてる方がおられますけども、学童保育も大変なんですよ。もう狭い部屋にたくさんの子供がいて、宿題したり、遊び回ったり。特に夏休みの学童保育なんかは、本当に一日中ですよ、あれは。だから、そういうところに公民館の活動の方が入ってくださるとか、また、中学校の子供たちの放課後の活動ですね。部活動も地域移行と言ってますけども、運動部だけじゃなくて、文化活動もありますし、公民館で積極的にやられてると、そばに小学校、中学校があるっていうのを本当に活かしていく可能性が大きいと思います。以上です。

1 市長

すばらしいご提案で、ありがとうございます。

ちょっと学童の部分はありますね。部活動もすぐに結びつけられるものと、そうじゃないところはあるでしょうけども、今後の課題になんで。

1 教育長

学童は今、先ほど協定連携を結んだことで、学校の施設をもっと有効に共有してもらいたいというふうに思ってます。今までの、それこそ常識を変えて、学校の施設は使えるんだと、それで、子供たちが、これ、いつも市長の持論なんですけど、学童の子供たちが充実することは、学校の子供たちの力の底上げにつながる、そういうふうな発想で、充実した学童を、学校施設を有効に利用してやってもらいたいし、学校内、他の子供たちのつながりや中学校とのつながり、公民館のつながりもやっぱり有効にやって、充実した学童保育を生み出していくことこそが学校の教育の充実につながるというふうに思ってます。

1 市長

だから、あれですよ、今の提案からしたら、授業の中にどう取り込もうかっていう話ばかりしてますけど、例えば学童の夏休みのところにもこの公民館活動と一緒にやりませんかという話を、ちょっと学童連絡協議会のほうと話をするとということです。それはしっかりやりましょう。大分時間を、すみません、過ぎてしまっておりますが、ほかいかがでしょうか。

1 西田委員

1つだけ、すみません。

天理市の命運をかけてってというようなことですが、市内には、やはり私学の小・中もありまして、多くの天理市在住の子供たちも通っている現状があります。そういう子供たちに対してこのプロジェクトをどのような形で参画をさせるのか。それはすぐにはいかならないと思いますけれども、将来的にはそういう人たちにも、こんな形で巻き込んでいくのかっていうことも視野に考えていかなければならないのかなというのはいちよっと思っています。

1 市長

毎回、法人さんのほうにも、こういうことを今やってんですけどっていうことでお話が、する機会があれば、確かにおっしゃるようないいかなと思えました。学校側としてどう考えられるかっていうところがあると思うんですけど、実際に今、天理中の皆さんは、割と生徒会活動等、杣之内の区長さんが熱心にやっておられて、割とやってるなど。杣之内とだけ先行して進んでますけど、多分何となく、昔より地域の皆さんとの距離感っていうのは開いてるのかなと思いますから、我々としては、要は、生涯現役で健康寿命とかっていって、高齢者の皆さんもどうかちゅう話のときに、もちろん公立だけじゃなく、私立とも関わっていただいて、元気になってもらえたら一番ありがたい話なんで、ちょっとそれは学校法人さんのほうに、こんなプロジェクトで考えておりますっていうのを言いに行く機会をつくったらいいんじゃないですかね。

1 教育長

給食残渣機が全部入った時点で、県教委のほうから公立のクラブの地域移行の話がはっきり出た、12月に天理中学校の島校長先生のほうには私のほうからお電話を入れて、環境教育の取組とクラブの地域移行の話を、現状をお話ししたいんです、と。同じようには進んではいくかどうか分からへんけども、やっぱりともに子供たちがこの天理で暮らすために、同じ方向を向かって進んでいくような話合いをしたいんですってことは伝えてあります。もう一遍、ちょっといつがええかお返事なかったんで、もう一度、3学期機会を。12月、2学期の終わりに電話を入れていきますので。

1 市長

例えばですよ、その校区っていう単位だったらどうしても地元の公立校という意識が強いかなと思うんですけど、今の、例えば環境審議ネットワークの皆さんは、多分ものすごく関心が高いので、やってらっしゃるのも天大の佐藤先生とか、天理高の先生だったりとかその辺が多いですから、ちょっと実際に地元と一緒に動いていけるところを

よりつくっていく部分で、その地域との橋渡しに我々、市役所のほうが関わっていくとことで、学校任せよりも、それはやっていったらいいんじゃないですか。

とにかく、どうしても今までコロナの関係で集まるとか、来てもらうってところは駄目なんだっていう時代が続いてたので、だから、来年度ですね、やっぱりそういう動きをつくっていくというところに、ちょっと4月の子供たちの対応もできたらなと思っております。

1 市長

ほかいかがでしょうか。もう一つの議題である学力の部分も、できれば少しご意見をいただきたいかなと思うんですが。資料6の学力のほう、説明を。

1 まなび推進課長

学力の、資料の6のところの概要になっております。本年度の学力学習状況調査の結果でございます。

特に、読むことの領域につきまして、昨年度より上昇しております。基本的に令和3年度は、全国平均の7割、または8割程度の点数しか取れてなかったんですけども、それが8割、9割程度、9割近く点が上昇したっていうのが各教科の状況でございます。全体的に正答率は3年度と比べまして4年度は上昇している状況です。無回答率につきましても、改善はしている状況です。小学校の算数につきましては、若干悪化はしておりますけど、それ以外の教科は無回答率も改善しております。小学校は記述式以外にも選択式の問題にも無回答というところがありますので、その辺が課題になっております。特に、後半の問題になるほど無回答率が高いっていう傾向がありますので、集中力の持続や読み解くのに時間を要する場合、後半の問題が無回答になっているところは課題になっております。また、読んだことをもとに自分の考えを書くっていうところの、そういう力にも課題があるというふうに考えております。また、児童生徒質問紙では、授業でのICT機器の利用頻度が全国平均・県平均を大きく上回っているのが天理市の特徴でございます。また、先生がよいところを認めてくれると回答した児童も全国平均・県平均よりも上回っているのも、これも天理市の特徴でございます。就学援助を受けている児童生徒の割合が15%以上いる学校というのは、天理市はちょっと半数の学校がそういう形になってます。奈良県では3分の1程度なんですけども、そういう就学援助に関する率は天理市は高いなというところでございます。

これを受けまして、天理市の方針としまして、読解力を上げるということと、無回答率を減らすと、この2つに絞って学力向上を目指しております。それを解決するためには、読売新聞の読むYOMUワークシートというものに取り組みまして、今年度、令和4年度の半期は無料で取組をさせていただきまして、5年度は学力推進事業ということで、予算計上をしております。1人当たり1年で600円ですので、大体市

の予算として120万程度の予算で対応しているところでございます。
以上でございます。

1 市長

こういう状況ですが、何か教育長、付け加える点はございませんか。

1 教育長

ここ10年近く、各学校はそれぞれの価値観で方針を決めて学力向上に取り組んできたのを、今、課長が言ったように、9ページの一番下にある方針を全部決めて、3年間やってみると。それで駄目だったら、また具体的な方針を出していくという方法に切り替えて、理解を高めました。これにまた一つ付け加えるなら、天理市みんなの主張であるとか、タイムトラベラーの主張であるとか、ああいう発信するために、たくさんの人に発信するために自分の考えをまとめたり、書いたりするところを、この基礎学習の発展系として、生きた学力として鍛えていきたいなと考えています。

1 市長

この学力調査については、これを上げるためだけに、自治体によっては模試みたいなのをひたすらやっていくみたいなもんもあるんで、それやっても意味がないだろうとは思ってます。以前から申し上げているんですが、平均点だけ比べても仕方がないと、実際の分布を見てみようということやってはきている中で、やっぱり無回答率がまだ高い傾向にあるというのが多分全国と歩留りがどれだけっていう話になってしまっている要素なんだと思います。

ちょっと語弊があるんで、この資料自体どうかなというところもあるんですが、最後の経済的に困難なご家庭が比較的多いという点については、もちろん経済事情にかかわらず、しっかり学力も頑張っているという児童もいるのはもう間違いないと。ただ、さらに言えば、じゃあ、そうじゃないところに比べて塾に通ってる率だとか、言い始めていくと、なかなか経済的に余裕がないと学校外で学べる機会というのがどうしても限られていってしまうかなと。だから、そうしたら、塾に行ってる子は、もう授業になったら復習なわけですよ。だから、一方で、そうじゃない子供にとっては、どうやってしっかり内容についていけるかっていうところで、むしろついていけない状態がだんだん戦線離脱につながっていくという部分も、だからこそ、町カ塾だったりに意味があるわけなんですけど、やっぱり公立としては、全体の底上げを、経済的ににかかわらず、ちゃんと力をつけていくっていうところに注力したいと。読む力については、算数の文章題ができてない子っていうのは、往々にして文章を理解していないと。さらに、その文章が、どの問題で聞かれてることが数式に書いたら何を言ってるのかという部分の置き換えができないがゆえに解けるはずもないというのが大体の方ですね。どうですか、教育長。

1 教育長

そのとおりだと思います。

1 市長

だから、意外に文章題でも、これってこういう、この数式を解けていうことだよっていうところまで言ってやったら解けるっていうパターンが多い。ゆえに、まずは読解力をちゃんとつけると。試験をやっているうちにもう疲れちゃって、もう最後のほうで集中力が途切れるっていうことがないようにするためには、やっぱり事前に読む力をつけると、こういうことですが。

1 教育長

すらすらと、ある程度の速さで読める、そういう力を伸ばしていく。

1 市長

いかがでございましょうか。思っていることをぜひお聞かせいただけたらと思います。

1 西畑委員

ほんとにおっしゃるとおりだと思うんですね。読んで理解ができなければ何も進まない。私も仕事で後輩をちょっと指導するに当たって、何を書いているんだ、メールの中身が分からん、と指導することもあります。逆に、上席から言われることもありますし。そういうことも含めてなんですけど、ざっと見たところで、11ページなんですけど、ここの下のところ、問題4は算数の問題よりプログラミングの問題であるので、算数の学力を測る上で適切かどうか疑問があるというんですけど、算数という教科っていうのは、論理的思考力っていうことも問われるところですよ。プログラミングであるから、ちょっと算数の能力と関係ないんじゃないかと。私、仕事でプログラミングも当然するんですけど、やっぱり自分の考えていることとものをどのように表現していくのかっていうふうなところかなと、理解できてるかっていうところを測る部分なので、この考え方、ちょっと外してもらった方がいいかと思ったところです。

1 市長

ちょっと私、ちゃんとそこまで読んでなかった。これは誰が書いたんですか。

1 まなび推進課長

はい、私です。私を書きました。

1 市長

これ、文句言うても仕方ないですけど。

1 まなび推進課長

おっしゃるとおりです。問題形式自体がプログラミングを体験した子が分かるような問い方という形だったので、算数のウエイトも確かにあるんですけども。

1 市長

いや、だから、文章題とやっぱりそういうのと同じで、論理的思考力を鍛えるっていう中で問題に入っているのであれば、GIGAスクール中で、各学校、プログラミングの部分って出てきてるはずなんで、その意味合いが何なのかというのを、ちゃんと各教員の皆さんが分かりながらやってるかっていうことだと思っんですけど、どうですか。

1 教育長

そうですね、プログラミングのことは、やはり弱いんじゃないかなというふうに思ってます、意識の上でね。そういう算数の教科も含めて、これからやっていく力だという認識が、教職員、私たちも含めて、やはり弱いのかなっていうふうに思います。

1 市長

何のためにやってるのっていうのが、ICTの時代なりGIGAスクールの表面的なところでとどまってる、やらないと仕方ないからやれみたいと言われてる感じがして、いや、そうじゃなくて、さっき西畑委員がおっしゃっていただいたように、論理的思考がこれによって培われて、その思考が単なるプログラミングのことだけじゃなくて、いろんなところに生きてきて、その力が今問われてんのよっていうところを教員の皆さんが理解しているかどうかということですよ。

1 教育長

おっしゃるとおりで、弱いと思います。

1 市長

だから、やっぱりGIGAになってからの懸念はそこですよ。手段なのに、何かそれを目的としてやられて言われて、何か教員の皆さん自身が腑に落ちないままやっていますみたいな、そうならないように。

1 西畑委員

来年、4月からの1年間が、そこが問われるところかなと思っってます、GIGAスクール構想の。プログラミングとかね、そういうふうなことに対してやったら、もし私が何かお話しできて、役に立つのであれば。

1 市長

ああ、ぜひ。職員研修とか、やっぱり何でやるんですかって、まさに今がいい機会なんで、ちょっとやっていただけたらと思います。

ほかいかがでしょう。学力で何か気になられる点とかございませんでしょうか。

どうぞ。

1 末浪委員

すみません、これはよむYOMUワークシートを今回、下半期取り入れて、結果がちょっと上がったよというようなことありますか。

1 まなび推進課長

出てはまだないんです。この半年間によむYOMUワークシートに取り組みましたので、この令和5年4月に実施する学力調査でどのような変化が出るかっていうところになります。

1 末浪委員

分かりました。では、よむYOMUワークシートを入れた結果は、次の4月に出る形なんですね、分かりました。その前からでも向上してるってところがあるのは、いいのかなというふうに思います。本当に、西畑委員がおっしゃったように、プログラミングっていう単語がもう苦手意識というか、本当に何か難しいもんみたいな感じに、先生たちも子供たちも思ってるんじゃないかなというふうに思うんですけども、本当に読んでそれを理解する力、インプット。理解したものを表現する、文字化する力、アウトプットっていうだけの話。それを数字に置き換えていくのがプログラミングなので、何かそういう簡単なもんだよっていうのは、恐らく西畑委員が簡単に説明してくださると思うので。知識を伸ばすような、もっと簡単なもんだっていうことを理解していただいて。今、熟読っていう、自分の学びとしての熟読っていう分野が結構はやっているようです。何か読む力が、大人もちょっと理解力が少ないなっていうところがあって、それを即読んで、すぐ理解できます、要点がそこですよっていうのが分かるような、そういうプログラムも大人の中でもはやっているようですので、子供もこのよむYOMUワークシートっていうのは私はちょっと注目していて、結果がどのように出るかはすごい楽しみにしています。

1 市長

ありがとうございます。

だから、こういう教材を使いながらやるっていうのもすごく大事だと思いますし、コミュニケーションの機会が減ってきているので、結局これも、あなたは今何を聞かれているんですかっていうのが分かってないと。だから、国語が一番簡単に、受験テクニク的にできるか

できないかを分ける。理由を聞かれている問題に、何々だからという理由を答えるような回答ができてない。ここ、何を聞かれて、太郎君はどう思ったんでしょうっていう、ここを、太郎君がどう思ったんでしょうということを書かないといけないのに、違うことをずらずらと書いてる。今、これ、もう一番典型であるやつですわ。だから、その辺もやっぱりコミュニケーションの機会を増やしていく。1日のことの中で、私は鍛えないとどうにもならないのかなと思っていました。

1 教育長

もしかして、みんなの学校プロジェクトが目指すところは、一つはそこかなと思ってます。いろんな人と話をしたりするのを、いろんな活動を共に通して、個々の違いが分かったり、応援してもらっていることに感謝をしたり、自分が感謝を伝えたい、そういう中の自立や体現の充実がそういう時間につながるってくるのかなと思います。

1 市長

だから、もちろん、飛び抜けて高くすることを目指すっていうことでなかったとしても、でも、やっぱり学力が高い町に住みたいですか、どうですかっていうことを子育て世代の人に聞いたら、そりゃあ、まあ、やっぱり高いところに住みたいという人が多いわけで、本当にまちづくりとか、子育て世代にとって、その町がどう見えているかっていうことにもつながってると思うんです。だから、今は、全国平均のにどんだけ近づけましたかっていうまだ勝負にとどまってしまっているんですけど、どうなんでしょう、皆さんの感じる実態として、天理の教育レベル自体について、何か周りの皆さんの思われていることだったりとか、お感じになってることがあれば聞かせていただければありがたいですが、どうでしょう。

どうぞ、吉田委員。

1 吉田委員

3年前か4年前ですけども、学校訪問に行かせてもらって、授業を見せてもらったんですけども、小学校の割と子供たちに考えさせる、自分の意見を少人数のグループで言わせる、それをまとめさせるっていうのが結構進んでいると思います。ただ、中学校に行くと、やはりそういう授業と、それから、昔からの授業とやっぱり混在してますね。子供たちが一日中6時間、何もしゃべらずに過ごす、そんな子供もいると思うんです。だから、聞くだけ、聞きながら目と手は先生が書いた板書を写してるっていう、そういう昔のやり方がまだ残っていないとも言えないと思います。だから、やはり情報を取り入れたらそれを自分で消化して、それを自分なりにまとめて出せという、そういう機会が増えなければ、やっぱり全国の学力調査が求めているような問題を理解してっていうことはなかなか難しいのかなと。

1 市長

なるほど。

1 吉田委員

授業のやり方をどんどん進めておられるんですけども、それを加速するといいかないかと思ってます。

1 市長

どうですか、小学校、中学校でそんな違いは感じられますか。今、ご指摘いただいたような。

1 教育長

感じます。

1 市長

なぜ。

1 教育長

中学校の職員、全員ではありませんが、やはり旧態依然とした指導法にとらわれてる、考えにとらわれていると思うところが様々な行事やプロジェクトを進めていく上で、小学校よりも多く感じます。

1 市長

それはあれ、やっぱり小学校のほうが担任で全部科目に関わるのに対して、中学校のほうは専科の自分のやり方はこうだみたいなんをより持ちやすいとか、そういうのあるのかしら。

1 教育長

それと、地域とのやっぱりつながりの濃さもあると思いますね。中学校よりも小学校がやはり今現在、地域とつながって、いろんな人と話す機会が多い。

1 市長

どうですか、中学校のほうがりより、先生がもう自分のやり方みたいに完結しちゃう中で、だから、昔のインプットを中心の部分が変わってないんじゃないかっというご指摘。

1 吉田委員

そう、おっしゃるとおりですね。やはり、今までの蓄積したノウハウっていうか、経験を生かした授業というのがやっぱり中学校のほうがかかわりがあつたりするところがあると思います。

1 市長

いい意味で生かされてりゃいいんだけども。

1 まなび推進課長

そうなんです。

1 市長

どうも今は違う話。

1 まなび推進課長

そうなんです。そういうふうに、ここにこだわってはるんで、新しいことを取り入れたり、自分の授業を変えたりっていう、そういう改革の意識っていうか、変革の意識がなかなか中学校の先生のほうがちょっと弱いかな。小学校のほうはまだ。

1 市長

だから、変えましょうっていうよりも、今おっしゃっていただいた6時間ずっと授業中、一言も自分は発言する機会がなかったとか、ひたすら何かノートを書き写してるだけだとか。多分、ノートを書き写すのも疲れちゃって、もうノートすら書き写さなくなってるとか。そうじゃなくて、その子が主体的に取り組む時間をちゃんと確保してつくっていきましようというのを、今日せっかくご指摘いただいたわけですから、ちょっとそれは来年度の一つのテーマとして。

1 教育長

分かりました。

1 市長

ほかはいかがでしょう。

1 西田委員

学校でしていただけるいろんな取組っていうのはあると思うんですけども、学校では決まった時間、全ての学生、生徒が授業を聞いて、家へ帰るわけですからけれども、その後やっぱり、家庭での学習とか、そこがやっぱり大事だなとは思っています。こういうのを見るときに、生活習慣とか、そういうものを併せて。

1 市長

それ、アンケートを取ってましたよ、たしか、帰宅後30分以上だか何だか自分で学習してますかっていうデータあったと思います。それ、どうですか。

1 まなび推進課長

学習につきましては、資料18ページ、家庭学習の取組につきまして、

質問したところにはあるんですけども。

1 市長

17ページのほうじゃないの。学校の授業時間以下にふだん、1日どのぐらい勉強してますかとは、17ページ。

1 まなび推進課長

授業以外でのふだんの勉強というところは、やはり弱いポイントになっておりますね。中学生が高いっていうのは、恐らく塾へ行ってるというところで、全国的に高いのはその傾向かなと思われま。

1 市長

これ、何か増減だけ出てますけど、数値でいったらどうなんですか。1時間以上もやってない子っていうのは、それぞれ何%ずついるんですか。これはね、増えてんのか減ってんのかっていう、どっちなんですか。

1 まなび推進課長

これは、全国平均と比較して。

1 西畑委員

アンケートの結果の中で、天理市はICT機器の利用率っていうのがすごく高いっていうのが、県のほかの市町村からも天理のほうが、なんて言われる。そのようなところがあるのにもかかわらず、これですわ。だから、せっかく持って帰ってやってるんだから、そこで使えるような何か教材とかってないんですかね。

1 市長

一応扱ってはいるんですよね。

1 教育長

これ、ただ、去年の、言い訳になりますが、4月の段階ですので、この、今年度ぐっと進んだ部分に対してはこれじゃないと思っています。

1 市長

なら、ちょっと、ですから、その経過がどうなっているのかっていうのもちゃんとこの場で共有しながらやっていくことが大事だということだと思います。さっきの家庭学習とかもあって、やっぱり塾行ってるかどうかっていうのは致命的に効いてくると、やっぱり親御さんがちゃんと見て宿題をやるような習慣をご一緒につくっていただけるかは、完全に任せっきりかっというのも割とあるんですが、学校

として、やっぱりしっかり宿題が一定程度できてるか、形式的に出してきてるかっていうよりも、出せてない子供がいるとすれば、それは家庭学習の時間が足りないということなんで、そこに対してどういうフォローができるかっていうところが大事。だから、がんがん塾行ってますっていう子はもうやっというてやったら、もちろんもうそれでいいわけですよ。逆に、ほかの部分で、生活習慣とか、人格形成とかを学校はちゃんとやってあげないといけないと。だから、ちょっとその辺りを見ながらというご指摘だと思いますので。

すみません、時間が超過してしまいました。貴重なご意見をいただいたんですが、今日、久しぶりの教育総合会議ということで、こういう時間を持たせていただいたんですけれども、ふだん、皆さん、教育委員会のときにこういう会話はちゃんとできてますでしょうか。

1 市長

できている。ありがとうございます。

じゃあ、継続的にちょっと今日の話を受けて、実際の学校の内容だったり、その改善につなげていっていただけたらと思います。

何かこれだけはどうしても最後言うときたかたかたっていうのがあれば承りますが、いかがでしょうか。よろしいですか。

どうぞ。

1 西畑委員

すみません、お時間過ぎているのにすみません。

食育推進協議会の際にもちょっと言わせてもらったんで、教育長もちょっと欠席されてたし、市長もおられなかったのですが、食育とって、食物残渣の結果とかもいろいろ見せてもらいました。こういう食品ロスっていうのがどれだけ減らせるかっていうふうなお話を各学校で教育されてるときに、じゃあ、どうやったら残飯が減るかっていう話になったときにね、対策として子供たちが出した答えは、頑張っって食べる、鼻詰まんで食べる。これもう、食育じゃないですよ。食べることを楽しいと思えへんかって、何が食育ですか。そんなときは栄養士の先生にもちょっと文句は言うたんですね。そういう考え方はやめましょう。給食の話のところでもいろんなやり方あるというふうな話があったんですけど、中身、根本的に、メニューの中身、根本的に考え直したほうがいいんじゃないかと思います。

1 市長

今の、昭和か、あるいは戦前かみたいな話はどうなの。

1 教育長

栄養士の人も含めて職員の考え方を、やっぱり時代に合うように変えたいというのがこの食育推進協議会の大きな目標なんです。だから、

それをその会議で言ってもらえることは、ちょっと私欠席していたんですが、大変ありがたいことです。

1 市長

だから、予算面も色々とか栄養バランスとかがあると思うんで、好きなものばかりというわけにいかないのかもしれないですけど、ただ、一方で、鼻詰まんて頑張って食おうみたいな世界ではちょっとギャップが大き過ぎるというご指摘やと思うので。そこでやっぱりどういうメニュー構成だったらっていう、子供が喜ぶ視点っていうのをどれだけ今のメニュー編成でやれてるのかっていうのをちゃんとやっぱり考えてもらって、ちょっとしばらくメニューも見たらどうですか。

1 教育長

それも提案もしてるんです。机上理論だけでこの10年主張してきたんと違うかと。そうじゃないということを発信していくところです。

1 市長

ありがとうございます。

ということで、話尽きませんけども、今日は以上とさせていただきます。また引き続きご鞭撻のほどよろしく願いいたします。今日は本当に長時間ありがとうございました。

閉会

午前11時35分